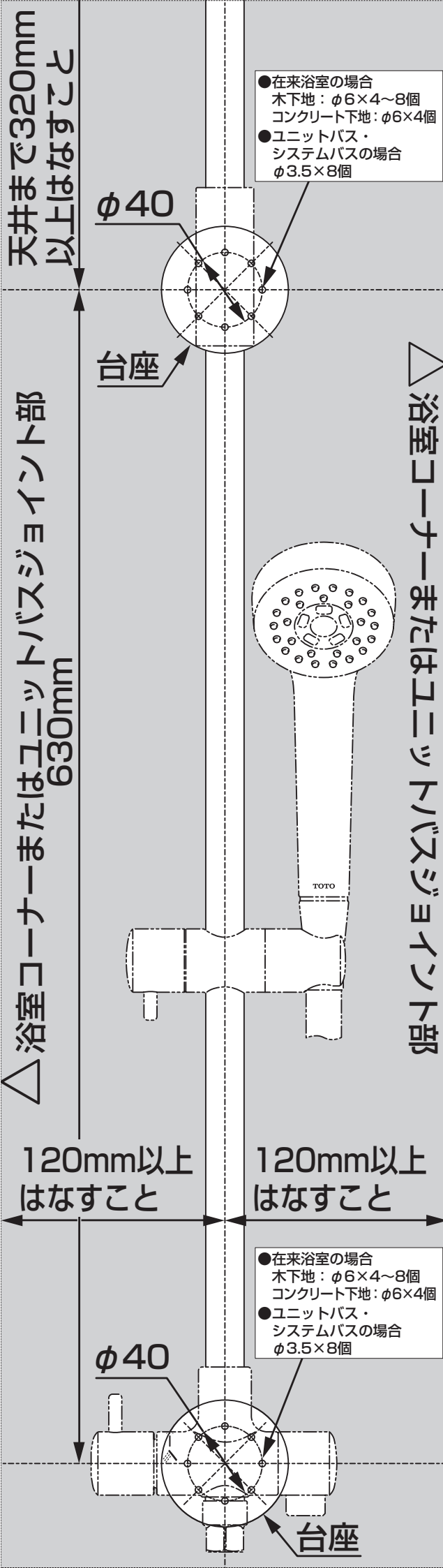


# 位置決めシート

同梱の「施工説明書」とあわせてご利用いただき、お客様のお好みの位置にシャワーバーを取り付けてください。



- 在来浴室の場合  
木下地：φ6×4～8個  
コンクリート下地：φ6×4個
- ユニットバス・システムバスの場合  
φ3.5×8個

φ40

台座

浴室コーナーまたはユニットバスジョイント部

- 在来浴室の場合  
木下地：φ6×4～8個  
コンクリート下地：φ6×4個
- ユニットバス・システムバスの場合  
φ3.5×8個

φ40

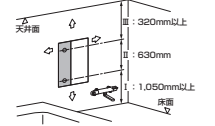
台座

120mm以上  
はなすこと

120mm以上  
はなすこと

## 4-1 シャワーバーの位置決め

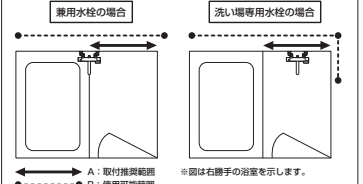
お客様とご相談のうえ、取付位置を決めてください。取付位置と、お好みの位置との取り合いと使い勝手感のため、「位置決めシート」も併用してご説明します。本説明書とあわせてご確認ください。位置決め、取付作業にお役立てください。（位置決めシートのおすすめ使用方法）



- 浴室内の位置決めシートをあて、シャワーバーの寸法を確認しながら、取り付ける位置を決める。（「位置決めシート」のグレーの範囲には、壁（ネールのジョイント部）1がからないように、また、周囲の器具（照明・鏡など）に干渉しない位置を決める）  
①：ユニットバス・システムバス（縦板壁）
- 取り付ける位置が決まったら、上記のように、  
Ⅰ：床から1,050mm以上  
Ⅱ：Ⅰから630mmの位置をけがけ（ただしⅡ：320mm以上確保すること）  
②：天井面から余裕があれば、Ⅱ：320mm以上となるよう、お客様のお好みで高さを上げてもらい
- シャワーバー（切替本体・スライドバー・オーヘッド（ドラワー部））を仮組みし（本説明書 6-4・6-5参照）、上記でけがいた位置に位置をあわせ、オーヘッドシャワーの可動範囲と使い勝手を確認する。

●以上の作業で取付位置が決まったら、本説明書 6-4・6-5 に従い、下穴をあける。

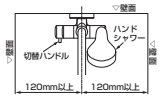
## ① 下穴AまたはBの範囲でシャワーバーの取付位置を決める。



- シャワーバーは、水栓本体近くに取付けてください。水栓本体から離れすぎると、使い勝手が悪くなり、ホースにつまみやすくなります。事前にご確認ください。
- オーヘッドシャワーは左右に回して（鏡面）お好みの位置でお使いいただけますが、周囲の照明や壁などにぶつけないようご注意ください。
- ② 下穴のスペースを確保してください。  
●天井面から30mm以上確保してください。天井面との間を指を挟むおそれがあります。  
●シャワーバー中心から周囲463mm以上確保してください。シャワーバー可動時に壁面をぶつかるおそれがあります。

## 4-2 シャワーバーの位置決め（つづき）

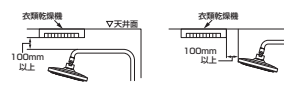
●取付位置は浴室コーナーから120mm以上離してください。切替ハンドルやドラワーシャワーの使い勝手が悪くなる場合があります。



ユニットバス・システムバス（縦板壁）の場合、壁パネルのつなぎ目から120mm以上離してください。

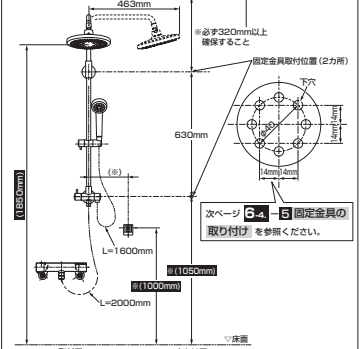
## 【浴室用衣類乾燥機をご使用の場合】

●シャワーバーは衣類乾燥機の温風出口および空気吸込口から100mm以上離して取り付けてください。  
-詳しくは、[1-11.安全上の注意](#) を参照してください。



## ③ 取付位置を決め、穴あけ位置を決める。

下図の範囲でお好みの高さで設定してください。



※（ ）は参考寸法です。使用者の身長、天井高などを考慮のうえ、取り付けてください。

## 5-1 固定金具の取り付け

固定金具の取付方法は取付ける壁によって異なります。下記に従って取り付けてください。

- 正しいサイズのドリルをお使いください。下穴径が大きすぎると、芯線れを起こして正しい固定ができなくなります。また下穴径が小さすぎると、タイル割れをおおそれがあります。
- 各壁材に応じて、適切な材質のドリルを使用してください。
- 穴あけ後は、下穴にシール材を必ず充填してください。
- 下穴に穴、壁材に正しいサイズの穴を開けず、お好みでください。
- 新築に取り付ける場合は、壁面に30mm以上の厚みのある補強材を柱または同柱に固定して、その補強材に取り付けてください。

<浴室壁材ごとの下穴径と必要寸法>

浴室壁材	下穴径 (mm)	深さ (mm)	穴数 (個)	使用し(後処理)	使用なし	
在来工法浴室	木下地	20 タイル	4-8	要	壁面付キ タッピンねじ (長) φ4.5×45 (長)	
		50 コンクリート下地	4-8	要	壁面付キ タッピンねじ (長) φ4.5×45 (長)	
ユニットバス・システムバス (縦板壁)	φ3.5	— (貫通)	8	不要	壁面付キ タッピンねじ (長) φ4.5×20 (短)	

※1：固定金具1個あたり

② ①か所あたり下穴数（木下地の場合）

※2：木下地に4本以上ねじがつかないよう、壁面に調整してください。（下記）木下地の場合は、下穴に壁面付キタッピンねじが4本以上つかないようにねじ本数を調整してください。



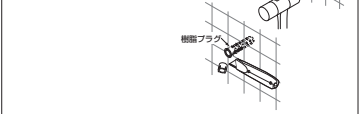
※新築以外のユニットバス（システムバス（タイル・プラスチック・大理石など））には取り付けできません。

## <在来工法浴室の場合>

① φ6mm・深さ20mmの下穴をあける。（上下とも4個）

前ページの表に記した、上下とも木下地にねじが4本以上つかないよう、ねじ本数を調整してください。また、下穴の深さを調整してください。タイル・モルタル部のみ下穴をあけ、木下地の手前を止めてください。（深さ20mmが目安です）

② ①であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。壁からはみ出した樹脂プラグは切り取ってください。



③ シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。（上下2か所）

タイルの割れを防ぐため、樹脂の締め付けは手前で行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。タイルが割れたりするおそれがあります。タイルが割れたりすると、タイルが割れたりするおそれがあります。タイルが割れたりすると、タイルが割れたりするおそれがあります。



## 5-2 固定金具の取り付け（つづき）

① φ6mm・深さ50mmの下穴をあける。（上下とも4個）

コンクリート下地の場合、下穴径φ6、深さ50mm

② ①であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。

③ シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。（上下2か所）

タイルの割れを防ぐため、樹脂の締め付けは手前で行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。タイルが割れたりすると、タイルが割れたりするおそれがあります。タイルが割れたりすると、タイルが割れたりするおそれがあります。

<ユニットバス・システムバス（縦板壁）の場合>

① φ3.5mmの下穴をあける。（上下とも8個）

② シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。

ねじを空転させないよう、樹脂の締め付けは手前で行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。タイルが割れたりすると、タイルが割れたりするおそれがあります。タイルが割れたりすると、タイルが割れたりするおそれがあります。

